

# こころの玉手箱

夜、帰宅して玄関のカギを開ける。次の儀式は決まっている。カギをぶら下げたキーホルダーを食卓の端にあるトレイに置く。場所はずいぶん。結婚指輪も外して一緒に。翌朝、二つを忘れず身に着けて出る。

二十五年前、結婚披露宴を催した帝国ホテルから贈られた記念品だ。当時は銀色に輝いていた。ホテルの人に「今もお持ちの方はほかにおられません」と驚かされたのが十年近く前。随分すり減ったし、取り付け部分は何度か修理もした。



25年前帝国ホテルから贈られた

出向して東京と行く  
葉県警や茨城県庁に  
きた。建設省から干  
まいを転々と移って  
結婚以来九回、住  
？と確かめずにい  
られない。  
家にも電話して「ある  
のかもしれない。た  
まにあわてて持って  
出ると忘れると、  
こちらも気になり、  
ごちらも気になり、

結婚記念のキーホルダー

たまたまその一時期、新婚夫婦にキーホルダーを贈っていたそうだ。詳しくは分からないが、ホテルのルームキーをかたどったものと聞いたような気もする。もらったのは一つだけ。家内は専業主婦で、帰りが遅い勤め人の私が自然と持つことに。「絶対になくさないでね」と厳命が下った。

以来、手放したことがない。これを持たせておけば、亭主はどんなに遅くなっても無事に帰ってくる。そんな心のカギでもあるような、おまじないみたいなもの

## 引っ越し9回、心のカギは1つ

たり来たり。本省勤務でも官舎からマンションへとあちこち。子供はおらず、ずっと二人だ。教育問題の心配などはないが、なぜか突然の引っ越しが多く、手際が随分良くなった。そんな思い出がすべてこれに詰まっている。

とりわけあわただしかったのは岩手県知事選に出馬を決め、急ぎよ盛岡に移った時だ。四十平方メートルほどのワンルームを物件を見もせず借り、名刺を片手に毎日百軒以上、あいさつに回り始めた。最初の一月月ほどはやむなく一人暮らし。その間もキーホルダーはポケットにあつた。

実は一度、なくしかけたことがある。知事時代に米国に出張し、サンフランシスコの空港で油断してアタッシュケースごと盗まれた。落ち込んで三週間後、捨てられたアタッシュケースが見つかった。現金以外の中身は無事だった。なおさら、手放せなくなったのは言うまでもない。